



こんにちは♪

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!

民主 苫小牧号外

2026年

6.14

No.1144



## 夏休み「なくていい」が9%

先日、『夏休み 子どもに昼食提供』という新聞の見出しに目が留まりました。読んでみると、学校給食がなくなる夏休み中に、子どもの栄養不足や健康悪化が問題になっているため、愛知県みよし市では児童館などの公共施設でお弁当を提供するという内容です。しかも、冬休み・春休みも実施する“全国初”の取り組みとのこと。対象は18歳以下、お弁当は550円ですが、自己負担は350円、非課税世帯は無料です。

これは苫小牧でもやってほしいと思いました。以前、養護教諭から「夏休み明けに登校する子どもの体重が減っている」という話や、児童館の方からは「児童館にお弁当を持ってこないの、昼食時に家に帰すが、家に食事がないために食べずに児童館に戻ってくる子どもがいる」という話を聞いていたからです。

子ども食堂もずいぶん広がってきましたが、身近な児童館などでお弁当の提供があれば、何より嬉しいことです。

気になるのは財源です。調べてみると、子ども家庭庁から補助が2分の1あります。みよし市は、若干の自己負担に加え、ふるさと納税の活用も考えており、同様の方法だったら、苫小牧でも実施できそうではありませんか。

さらに調べると、こども家庭庁が夏休みの支援をすることになったのは、子どもの貧困問題などに取り組む全国の団体や、超党派の国会議員でつくっている『子ども貧困対策推進議員連盟』などの運動がありました。さらに24年におこなった、ひとり親家庭の実態調査から「支援は待ったなし」という結果があらわれたからです。

調査結果は、母子世帯で「1食100円」の暮らしをしている世帯が26%だったり、お米が買えなかったと回答した世帯が41%もありました。自由記載では、「子どもは1日2食、親は1日1食」「夏休みは朝昼兼用で食べさせている」などがありました。さらに、夏休みにどこにも連れていけない世帯が48%あり、楽しいはずの夏休みが、「なくていい」が9%、「今より短くていい」が42%でした。苫小牧でも実態調査が急がれますね。

根本解決として、国が中小企業への支援をしっかりとやって、時給が上がる仕組みにし、国民の所得をあげなければなりません。高市首相は、武器の爆買で軍需産業を儲けさせるのではなく、国民にこそ目を向けるべきです。